



認定看護師だよ!



口腔ケアの効果

① 誤嚥性肺炎の発生リスクを低減

口腔内は、温度・湿度・栄養の3条件が揃っている



多くの微生物が口腔内細菌叢を形成



ケアによって細菌を制御する

② 唾液の作用を引き出す

消化関連

- 消化作用
- 咀嚼の補助、嚥下運動
- 溶媒(味覚の発言)

感染防御

- 洗浄
- 抗菌:ラクトフェリンの働き
- pH緩衝:胃酸の中和
- 細菌の凝集

発声・発音

- 潤滑:口唇・舌の動きを滑らかにする

全身

- 排泄
- 内分泌
- 水分平衡調整

③ 廃用症候群の予防

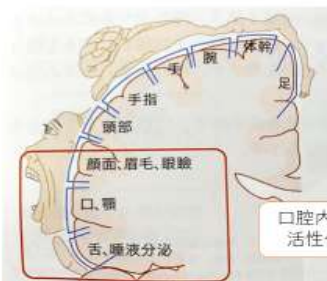
- 口腔周囲の筋肉や舌・口唇も廃用が起きる

口腔周囲筋群の廃用要因

- ✓ ベッド上安静
- ✓ 酸素吸入(マスク・カニューレ)
- ✓ 点滴
- ✓ 経鼻経管栄養
- ✓ 発語量の減少
- ✓ 活動性の低下
- ✓ 絶飲食
- ✓ 高齢・原疾患などの関連

④ 脳の活性化

- 身体の中でも最も敏、大脳皮質の運動野や知覚野の1/3を占める



口腔内の刺激は脳の活性化につながる

今月担当は、摂食嚥下障害看護認定看護師 川野・浦野です。
今回は、食支援に大切な「口腔ケア」についてご紹介します。

介助でのケアポイント

開かないときは?

理由として・・・

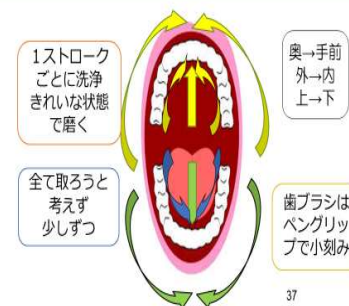
- また、なにか痛い事をされるかも
- 無理やり食べさせられるかも
- 口を開けるのが痛い
- 無理やり歯磨きは嫌!
- 絶対、口は開けない

口腔内に潰瘍や痛みがある、
顎に異常があって開かないなどがあるかも・・・

- 話しかけながらムードを作る
- スキンシップを図る
• 手指→手首→腕→肩→首→頬→口唇→口腔
- 繰り返し説明
- 集中できないため、短時間
- 何度かに分けて頻回に行う
- 口腔内が清潔で気持ちいいという体験にする



スポンジブラシも歯ブラシも基本は奥から手前



日常の口腔アセスメント・ケア介入

